日本産倍足類及び唇足類の分類学的研究
24. ミコシヤスデ科の1新属[1)]

三　好　保　徳

愛媛県松山北高等学校

昭和 33 年 2 月 21 日　受領

Pterygostegia gen. nov. (クロイワヤスデ属)

本新属は近縁のミコシヤスデ属 *Syntelopodeuma* 及びフトケヤスデ属 *Tokyosoma* に似ているが，しかし次の諸点で区別される。

属の特徴：雄，雌ともに胴節は 32。第 6 背板より側庇が著しく広く発達し，体の中央部では最も広く，後方にいたるにしたがって漸次小となり，第 27，第 28 で急に小形となりその後方の体節では側庇は全くない。これらの側庇は少し背面へ反っている。雄の第 1，第 2 歩肢は甚だ短小であるがこれに反して第 3 から第 7 歩肢まではとくに大形且肥大している。雄では第 3 歩肢よりほとんど体の後端の歩肢にいたるまで，その腿節がいちじるしく弓状に彎曲している。跗節は甚だ長く，先端部が少し彎曲しているか，あるいは殆ど直線的である。雌の歩肢は皆細長く肥大しているものなく又腿節も彎曲していない。雄の第 8，第 9 歩肢基節の形状はフトケヤスデ属に似ていてミコシヤスデ属の如く第 9 基節に 2～3 個の著しい突出物があるということはない。

生殖肢：生殖肢を前面から見ると (Abb. II, A) 前生殖肢の合着端肢の基底部 (Bst) より後方へ向って中央片 (M) が船形をして突出し，かつ西側へその末端突起 (Stl) が突出している。その関係をやや模型的に示すと Abb. II, E の如くである。後生殖肢の基節には内外の大角状突起があり，内方基節突起 (iF) は前生殖肢合着端肢の末端突起の孔の中へ入りその後面へぬけでている。生殖肢を後面から見ると，前生殖肢の合着端肢が合着基節 (s) に接するところに鞭状大剛毛 (p) が生じ，これは合着端肢の中央片の下面にかくれ，その先端は合着端肢末端突起の後面中央の毛叢亀裂 (Abb. I, D の fi) ところに現れている。

(注)　この鞭状大剛毛 (Abb. I, D の p) は *Tokyosoma*—Tokyosominae にはないと原記載者 Verhoeff はのべているが[2)]，それは Verhoeff の明らかな誤認であって，その模式産地一帯からえた多くの標本についてくわしく観察した結果は皆これをもっている。ただ観察が甚だ困難である。又 Verhoeff の *Tokyosoma* の原記載に伴う生殖肢の図の前面図と説明してあるものは明らかに後面図の誤りであって，その図にこの鞭状大剛毛の基部が描かれているにもかかわらずその先端をつきとめてそれが鞭状大剛毛であることを指示されなかったことは残念であった。

属模式種：*Pterygostegia kuroiwadensis* Miyosi

Pterygostegia kuroiwadensis sp. nov. (クロイワヤスデ)

雄体長 18 mm 体幅前環節 1.3 mm 後環節 2.7 mm.

雌体長 17 mm 体幅前環節 1.4 mm 後環節 2.5 mm.

体淡黄色の種，眼は約 18 個の黒色単眼の集合よりなる。前頭，頭頂に毛多し。触角は第 3 節最長，その各節の長さと幅との比は第 2 節＝22：8，第 3 節＝37：8，第 4 節は 30：8，第 5 節＝34：8，第 6 節＝18：9 である。頸板は頭部より幅小で楕円形，瘤隆起なし。第 2 背板よりその側方に瘤隆起を生じ，それは後方に至るほど大形となり，第 5，第 6 背板よりついにそれは幅広い側庇に発達する。なおこれら背板側方には先

1)　この私の一連の研究は文部省の科学研究助成補助金によるところ多く，記して感謝の意を表す。

2)　1932 Zool. Jahrb. Syst., Bd 62, Heft 5/6, p. 510.
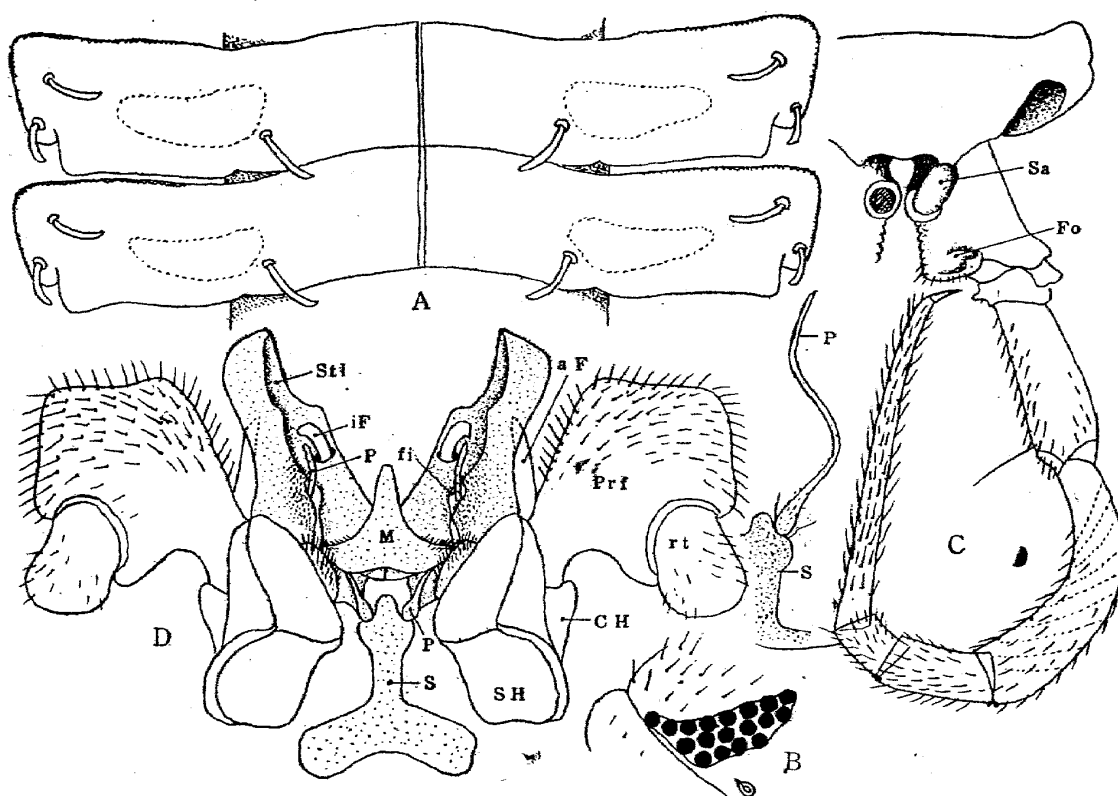
Abb. I. *Pterygostegia kuroiwadensis* sp. nov. A=2 Rumpfsegmente aus der Körpermitte. B=Ocellen. C=Männchen, 8. Bein von vorn gesehen, sa: Koxalsäckchen. D=Gonopoden von hinten gesehen, und nicht von vorn, punktierter Teil zeigt die vorderen Gon., s: Syncoxit des v. Gon., p: Pseudoflagella, m: Mittellappen des Syntelopodits, stl: Endschild des Syntel, fi: Haarspalt im Endschild, iF: innerer Fortsatz des h. Gon., aF: äusserer Fortsatz des h. Gon., CH. Coxa des h. Gon., Prf: Praefemur, rt. Resttelopodit des h. Gon., SH. sternale Platte des h. Gon.

のとがらない大剛毛を 3 本ずつもっているが，体の中央部の側庇においては前方の大剛毛から内方の大剛毛までの距離は後方の大剛毛にいたる距離の約 5 倍ある。尚側庇側縁の後半は欠刻となって短かく，側庇背面にはひくい楕円形の瘤隆起がある。一般的な歩肢の形態は属徴でのべた如くであるが，さらに雄の第 8 歩肢でみれば跗節と腿節との長さの比は 57: 40 である。又雄の第 8，第 9 歩肢の基節は，フトケヤスデ属のそれに似ているが，第 8 基節の基節線の前面に生じている長楕円形の基節腺嚢 (Abb. I, C の sa) は前生殖肢合着端肢の中央片の凹みの上に接している。尚この基節には先端前方に 1 つの突起 (Fo) を有するのみで，第 9 基節でもこの点同じであってミコシヤスデ属にみるような著しい突出物はない。

生殖肢：前生殖肢合着端肢の中央片の船首状突起が長大であり，後生殖肢の内外基節突起はほぼ同長で短い。又後生殖肢の前腿々節は短大である。

（注） Verhoeff が *Tokyosoma* の原記載に用いた標本は高桑から送付されたもので Verhoeff はそれを 1929 年 2 月 6 日に受取っている。そして同年 5 月 16 日発信の高桑への手紙の中に，それを *Tokyosoma* n. g. *takakuwai* n. sp. とするということが知らされている。その後 Verhoeff は Bronns—K. u. O. d., Tierreichs—Diplopoda 9. Lief. (1929) の中で Diplomaragnidae を Tokyosominae と Diplomaragninae の 2 亜科に分けてその特徴を記載し，前者にはただ 1 属 1 種 *To yosoma takakuwai* が日本に産するとした。しかしそこで種の記載は行わず，その記載が公表されたのは 1932 年 3 月 30 日刊行の Zool. Jahrb. Bd. 62, Heft 5/6, p. 515 においてであった。この原記載において産地は東京付近とされており，属名もその産地に

よったものであろうと思うが，しかし高桑から三好が直接うかがったところでは，この標本は愛媛県今治市付近産のものであったという。したがってこの種は愛媛県今治市のある高縄半島全体に広く分布している。この種の生殖肢の構造は甚だ複雑であるが，とにかく Verhoeff の原記載中の説明にも図にも誤りがある。三好はこの *Tokyosoma* 属の数種について正確な記載を行うべく準備中であるが，今ここに記載した *Tokyosoma* に近縁の新属の生殖肢の説明が *Tokyosoma* のそれと大変相違するかの如くみえるのは全く後
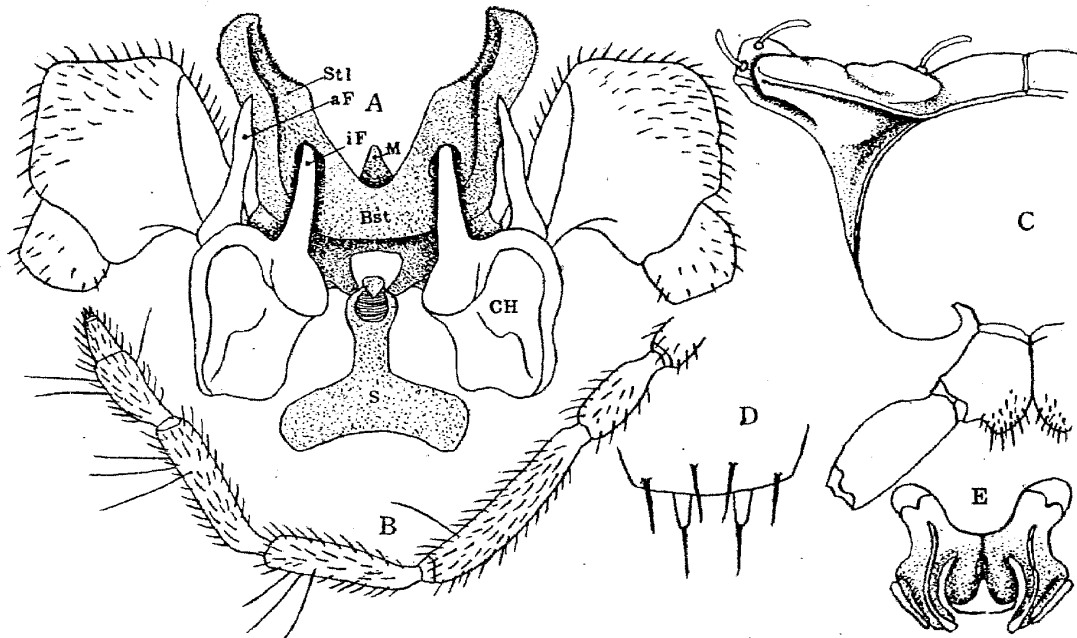
Abb. II. *Pterygostegia kuroiwadensis* sp. nov. A=Gonopoden von vorn gesehen, Bst: Basalteil des Syntelopodits. B=Antenne. C=Männchen, 6. Segment von hinten gesehen. D=Männchen, Hinterende von oben gesehen. E=Syntelopodit von unten.

者の原記載に誤りがあるからであって，実物はよく似たものであると考えられたい。上記属徴のところでも記したように，Verhoeff は重要な形質である鞭状大剛毛を見落していたが，*Tokyosoma* には明らかにそれがあり，もしこのミコシヤスデ科を亜科に分ける必要があるなら，この新属は Tokyosominae にはいるものと考える。

完模式標本：体長 18 mm の雄，産地：愛媛県上浮穴郡黒岩洞内，採集者上野俊一氏，採集日 1955 年 4 月 15 日。標本三好保徳保存。標本をめぐまれた上野俊一氏に深い感謝をささげる。

Résumé

Beiträge zur Kenntnis japanischer Myriopoden 24. Aufsatz: Über eine neue Gattung von Diplopoda

Yasunori Miyosi
Matuyama Kita Kōtōgakkō

Pterygostegia gen. nov. (Diplomaragnidae)

Diese neue Gattung hat einige Ähnlichkeit mit *Syntelopodeuma* und *Tokyosoma*, aber ist folgendermassen zu charakterisieren: 32 Rumpfsegmente. Seitenflügel des Rumpfsegments, sowohl beim Männchen

als auch beim Weibchen, entwickelt sich gut. Hierin ist die neue Cattung dem *Syntelopodeuma* ähnlich. Coxa der hinteren Gonopoden haben innere sowie äussere Hornfortsätze. Hierin ist die neue Gattung dem *Tolyosoma* ähnlich. Die Seitenflügel am 6. bis 26. Ring dehnen sich stark in die Breite aus, aber die am 27. und 28. Ring sind verkleinert und am 29.–32. sind dieselben gar nicht zu sehen. Männchen: 1 und 2. Bein klein, aber 3.–7. Bein sehr gross und dick. Femur von 3. Bein, ungefähr bis auf das hinterste, bogenförmig stark gebogen. Fast alle Tarsus sehr lang und etwa säbelig gebogen. Das 8. und 9. Beinpaar haben jeder an ihren Hüften nur einen kleinen Fortsatz. Weibchen: Beine sind schlank und Femur nicht gebogen.

Gonopoden: wie sie sich in Abb. I und II zeigen. Dr. Verhoeff hat aber seine Meinung über die Gonopoden von *Tolyosoma* (d. h. Tokyosominae) im Zool. Jarb. Bd. 62, Heft 5/6 (1932) wie folgendes bemerkt: "Syncoxit der vorderen Gonopoden ohne Pseudoflagella", aber dünkt mich es ist seine zweifellos falsche Auffassung, weil ich bemerkt die Pseudoflagella durch die genaue Beobachtung von vielen Materialien, die ich von Typs-Örtlichkeit gesammelt, und diese neue Gattund ebenso hat die Pseudoflagella wie *Tokyosoma*.

Genotyp: *Pterygostegia kuroiwadensis* Miyosi

Pterygostegia kuroiwadensis sp. nov.

Männchen: Länge 18 mm, Breite eines Metazonites ca. 2.7 mm.

Weibchen: Länge 17 mm, Breite eines Metazonites ca. 2.5 mm.

Körperfarbe ist hell gelblich. Ocellen etwa 18, schwärzlich. Stirn und Scheitel behaart. Das 3. Antennenglied das längste. Collum enger als der Kopf, und ohne Seitenbuckel. Seitenflügel von 6. bis 26. Ring sehr breit entwickelt sich ins breite, und aus den Knoten der Macrochaeten bildet sich ein etwa spitzwinkliges Dreieck, die Entfernung von dem vorderen Knoten bis zum inneren ist 5 mal so lang als die von dem vorderen bis zum hinteren. Vordere Gonopoden: Schiffsschnabelförmiger Fortsatz des Mittellappens (des Syntelopodits) ist lang und gross. Endschild des Syntelopodits ist länger als Präfemur des hinteren Gonopods. Hintere Gonopoden: Innere und äussere Hornfortsätze des Syncoxit sind etwa gleich gross. Praefemur ist kurz und dick. Material: Der Holotyp, ein Männchen von 18 mm Länge, Allotyp, ein Weibchen von 17 mm Länge, befindet sich in meiner Sammlung. Der Name wurde nach dem Fundort gegeben. Fundort: Kuroiwadō Höhle, Kamiukena-gun, Ehime-ken.

会　　記 II

関東支部 2 月例会

昭和 33 年 2 月 15 日，東京大学理学部動物学教室講義室にて，滝庸氏司会の下に午后 1 時半より開かれ，下記の講演があつた。

1. 和田浩爾 (国立真珠研): アコヤ貝殼の構造について。
2. 大山　桂 (地質調査所): 適応放散性に関する一考察。

出席者約 20 名であつた。

関東支部 3 月例会

昭和 33 年 3 月 15 日，午后 1 時半より，碓井益雄氏司会により東京大学理学部動物学教室講義室にて開かれ，下記の講演があつた。出席者 16 名。

1. 橋本　碩 (淑徳学園): 日本産オヨギユスリカ。
2. 須甲鉄也 (埼玉大・生): アメリカザリガニの生殖週期について。